

歌唱集

追加分



ふるさと益田の応援団

近畿益田会 ハイキング部

益田市の話をしよう

作詞 早内 高士

一 清らかな きよ川に かわ アユ跳ね は

たかつがわ

高津川 水と たわむれ

ホタル追い 夜を 見上げた

さと

郷の 想いで おも ぼくの ふるさと

益田市の 話を しよう

二 人麻呂も ひとまろ 画聖 がせい 雪舟 せつしゅう

ゆうや

夕焼けに も 燃ゆる うなばら 海原

いにしえの 街が まち 浮ぶよ うか

旅の 終わりに きみの ふるさと

益田市の 話を しよう

三 秋祭り あきまつ 大蛇 おろち 荒ぶる あら

かぐらま

神楽舞う 胸の ときめき

えんにち

縁日の 花火 はなび なつかし

遠い 日の夢 ぼくの ふるさと

益田市の 話を しよう

1 汽笛一声 新橋を

(新橋)

はやわが汽車は離れたり
愛宕の山に入り残る
月を旅路の友として

2 右は高輪 泉岳寺

四十七士の墓どころ
雪は消えても 消え残る
名は千載の 後までも



3 窓より近く 品川の

(品川)

台場も見えて 波白く
海のあなたに うすがすむ
山は上総か 房州か

4 梅に名をえし 大森を

(大森)

すぐれば早も 川崎の
大師河原は 程ちかし
急げや電気の 道すぐに

(川崎)

(続く)

53 扇おしろい京都べに

また加茂川の驚しらず
みやげを提げていざ立たん
あとに名残はのこれども
(向日町)

加茂川



54 山崎おりて淀川を

わたる向うは男山
行幸ありし先帝の
かしこきあとぞしのばるる

(山崎)

55 淀の川舟さおさして

下りし旅は昔にて
またたくひまに今はゆく
煙たえせぬ陸の道



56 送り迎うる程もなく

茨木 吹田うちすぎて
はや大阪につきにけり
梅田はわれを迎えたり

(高槻)
(茨木)
(吹田)
(大阪)

57 三府の一に位して

商業繁華の大阪市
豊太閤のきずきたる
城に師団はおかれたり

大阪城



58 こころ昔の難波の津

ここぞ高津の宮のあと
安治川口に入る舟の
煙は日夜絶えまなし

59 鳥もかけらぬ大空に

かすむ五重の塔の影
仏法最初の寺ときく
四天王寺はあれかとよ

四天王寺



60 大阪出でて右左

菜種ならざる畑もなし
神崎川の流れのみ
浅黄にゆくぞ美しき

(神崎)



61 神崎よりはのりかえて

ゆあみにのぼる有馬山
池田 伊丹と名にききし
酒の産地もとおるなり

(西ノ宮)
(住吉)
(三ノ宮)

65 おもえば夢か時の間に

五十三次走り来て
神戸の宿に身をおくも
人につばさの汽車の恩

神戸



62 神戸は五港の一つにて

あつまる汽船のかずかずは
海の西より東より
瀬戸内がよいも交じりたり

(神戸)

布引の港



63 磯にはながめ晴れわたる

和田のみさを控えつつ
山には絶えず布引の
滝見に人ものぼりゆく

64 七たび生れて君が代を

まもるといいし楠公の
いしぶみ高き湊川
ながれて世世の人ぞ知る

湊川神社



明治三十三年五月「地理教育鉄道唱歌(一)」
地理教育と銘打った鉄道唱歌は第一集から第五集まで発行された。作曲者はそれぞれ異なるが、最も人口に膾炙したのは多梅稚の曲です。

集	線	初版発行日	作曲者
第一集	東海道	明治三十三年五月十日	多梅稚
第二集	山陽九州	明治三十三年九月三日	上真行
第三集	東北地方	明治三十三年十月十三日	多梅稚
第四集	北陸地方	明治三十三年十月十五日	納所弁次郎
第五集	関西各線	明治三十三年十一月二日	吉田信太郎
			多梅稚

53 扇おんぎおしろい京都べに

また加茂川の鷺さぎしらず
みやげを提さげていざ立たん
あとに名残なごりはのこれども

(向日町)

加茂川



54 山崎おりて淀川よどがわを

わたる向うは男山おとやま
行幸ぎょうこうありし先帝せんていの
かしこきあとぞしのばるる

(山崎)

55 淀の川舟さおさして

下りし旅は昔にて
またたくひまに今はゆく
煙たえせぬ陸くわの道みち



56 送り迎むかうる程もなく

茨木はつき 吹田ふいたうちすぎて
はや大阪おおさかにつきにけり
梅田うめだはわれを迎むかえたり

(高槻)

(茨木)

(吹田)

(大阪)

57 三府の一に位して

商業繁華の大阪市

豊太閣のきずきたる

城に師団はおかれたり

大阪城



58 ここぞ昔の難波の津

ここぞ高津の宮のあと

安治川口に入る舟の

煙は日夜絶えまなし

四天王寺



59 鳥もかけらぬ大空に

かすむ五重の塔の影

仏法最初の寺ときく

四天王寺はあれかとよ

60 大阪出でて右左

菜種ならざる畑もなし

神崎川の流れのみ

浅黄にゆくぞ美しき

(神崎)



61 神崎かんざきよりはのりかえて

ゆあみにのぼる有馬山ありまやま

(西ノ宮)

池田いけだ伊丹いたみと名にききし

(住吉)

酒の産地さんちもおるなり

(三ノ宮)

62 神戸こうべは五港の一つにて

(神戸)

あつまる汽船のかずかずは

海の西より東より

瀬戸内せとうちがよいも交まじりたり

布引の滝

63 磯いそにはながめ晴れわたる

和田わだのみさきを控ひかえつつ

山には絶えず布引ぬのびきの

滝見たきみに人もものぼりゆく

64 七たび生れて君が代を

まもるといいし楠公なんこうの

いしぶみ高き湊川みなとがわ

ながれて世世よよの人ぞ知る

湊川神社



65 おもえば夢か時の間に

五十三次走り来て

神戸の宿に身をおくも
人につばさの汽車の恩

神戸

66 明けなば更さらに乗りかえて

山陽道さんようどうをすすままし

天気はあすも望のぞみあり

柳やなぎにかすむ月の影

明治三十三年五月「地理教育鉄道唱歌(一)」

地理教育と銘打った鉄道唱歌は第一集から第五集まで発行された。作曲者はそれぞれ異なるが、最も人口に膾炙したのは多梅稚の曲です。

集	線	初版発行日	作曲者
第一集	東海道	明治三十三年五月十日	多梅稚 上行
第二集	山陽九州	明治三十三年九月三日	多梅稚 上行
第三集	東北地方	明治三十三年十月十三日	多梅稚 田村虎蔵
第四集	北陸地方	明治三十三年十月十五日	多梅稚 納所弁次郎 吉田信太
第五集	関西各線	明治三十三年十一月三日	多梅稚 同



若いふたり(昭37)

杉本夜詩美作詩
北原謙二歌

一、きみにはきみの 夢があり
ほくにはほくの 夢がある
ふたりの夢を よせあえば
そよ風甘い 春の丘
若い若い 若いふたりの
ことだもの

二、きみにはきみの 歌があり
ほくにはほくの 歌がある
ふたりが歌を おぼえたら
たのしく晴れる 青い空
若い若い 若いふたりの
ことだもの

三、きみにはきみの 道があり
ほくにはほくの 道がある
ふたりの道は 遠いけど
きのうも今日も はずむ足
若い若い 若いふたりの
ことだもの

中の島ブルース

齋藤保作詞
内山田洋とクール・ファイブ歌

一、赤いネオンに 身をまかせ

燃えて花咲く アカシアの

あまい香りに 誘われて

あなたと二人 散つた街

ああ ここは札幌

中の島ブルースよ

二、水の都に すてた恋

泣いて別れた 淀屋橋

ほろり落とした 幸せを

あなたと二人 拾う街

ああ ここは大阪

中の島ブルースよ

三、会えば別れが つらいのと

泣いてすがつた 思い出の

小雨そほ降る 石畳

あなたと二人 濡れた街

ああ ここは長崎

中の島ブルースよ

三百六十五歩のマーチ

しあわせは 歩いてこない
だから歩いて ゆくんだね

一日一歩 三日で三歩

三歩進んで 二歩さがる

人生は ワン・ツー・パンチ
汗かき ベそかき 歩こうよ
あなたのつけた 足あとにゃ
きれいな花が 咲くでしょう

*腕を振って 足をあげて

ワン・ツー・ワン・ツー

休まないで 歩け

ソレ ワン・ツー ワン・ツー

ワン・ツー ワン・ツー

しあわせの扉はせまい

だからしゃがんで 通るのね

百日百歩 千日千歩

ままになる日も ならぬ日も

人生は ワン・ツー・パンチ

あしたのあしたは またあした

あなたはいつも 新しい

希望の虹を だいている

*くりかえし

しあわせの 隣りにいても

わからない日も あるんだね

一年三百六十五日

一歩違いで にがしても

人生は ワン・ツー・パンチ

歩みを止めずに 夢みよう

千里の道も 一歩から

はじまることを 信じよう

*くりかえし

麦畑

(男)俺らと一緒に暮らすのは およね おめえだと
ずーっと前から決めていた

嫁っこさ来ておくれ

(女)やんだたまげたな 急に何言うんだ

俺らも前から 松つつあんなを 好きだと思ってた

(男)鎌を持つ手が震えてる

(女)鎌を持つ手も震えてる

(男女)二人の心は 沈む夕陽に 真っ赤に染められて

(女)俺らでええのか

(男)俺らおめえでええてば

(男女)愛の花咲く 麦畑

(男)もしも嫌いと言われたら 俺ら なじよしたべ

生きる希望も 夢もなく 一人で死んだべな

(女)あいやかわいそう 馬鹿なこと言うな

俺らも毎日 松つつあんの

プロポーズ待っていた

(男)交わす目と目が震えてる

(女)さわる手と手も震えてる

(男女)二人の心は 沈む夕陽に 真っ赤に染められて

(女)俺ら信じてええのか

(男)俺ら絶対嘘つかね

(男女)愛の花咲く 麦畑

ぼけます小唄

一 何もしないでぼんやりと
テレビばかりを見ていると
のんきなようでも歳をとり
いつか知らずにボケますよ

二 仲間いないで一人だけ
いつもすることない人は
夢も希望も逃げていき
いつの間にやらボケますよ

三 酒も旅行もきらいです
歌も踊りも大嫌い
お金とストレスためる人
人の二倍もボケますよ

(お座敷小唄の替え歌)

ぼけない小唄

一 風邪をひかずに転ばずに
笑い忘れずよくしゃべる
頭と足腰使う人
元氣ある人ボケません

二 スポーツ カラオケ 囲碁 将棋
趣味のある人味もある
異性に関心持ちながら
色氣ある人ボケません

三 歳をとつても白髪でも
皺が増えてもまだ若い
演歌を歌ってアンコール
生甲斐ある人ボケません

川柳

誕生日　ローソク吹いて　立ちくらみ

立ち上がり　用事忘れて　また座る

お辞儀して　共によるける　クラス会

自己紹介　趣味と病気を　ひとつづつ

手を繋ぎ　昔はデート　いま介護

いびきより　静かな方が　気にかかる

腹八分　残した二分で　薬飲む

定年だ　今日から妻が　我が上司

床屋に行く　暇も金もあるけど　髪がなし